

天駄韋の記

岡部耕大 ②

大概の人は、憧れの人を「人柄のいい人だった」とうれしげに言う。人柄のいい人はいい微笑みをする。往年の映画女優原節子の微笑みである。若い人は原節子を知らないかもしれない。黒澤明監督作品や小津安二郎監督作品をぜひ見て頂きたい。近頃はよく長崎市を訪ねる。長崎市の劇団が私の戯曲を上演してくれ、長崎市の人が私の劇団を観劇してくれるからであ

る。なんとなく和子姉さんに連絡をしている。和子姉さんは、すぐに車でホテルや劇場のロビーに駆けつけてくれる。そして、微笑みながら決まって「よう気張ったね」と言い、小遣いをくれる。60歳を過ぎてからもそう

私の憧れの人とは

である。これからもずっと子ども扱いなのかもしれない。なにせ7歳の歳の差である。私も70歳。黄昏である。なぜ和子姉さんに連絡をするのか。「俺の親戚にはこんな憧れの人がいる」と映画の関係者や演劇仲間

に自慢したいからである。夜の長崎市の繁華街で松浦市が話題になったことがある。すぐと居酒屋の仲居から「へえ、松浦辺りも長崎県になるとですか」とからかわれた。座がしんとした。冗談も悪い冗談はいけない。仲居は「松浦には行っ

たこともなか」とも言った。この距離感はこちらからでもない。仲居は「真北の人は」ともた。仲居は真北の人によっぽどです」と素直に私に語った。私がよく泊まる松浦の鶴屋旅館の女将は「この旅館がここま

で持ったとは炭鉱の人のおかげ嫌な目に合ったことがあるのかもしれない。喧嘩っ早いのも江戸っ子とよく似ている。松浦市をこ存しなければ九州の地図を広げて頂きたい。地図の斜め上に平戸島があり、伊万里湾に沿って伊万里市がある。その平戸と伊万里の間にちよんとあるのが松浦市である。長崎県北部、北松浦半島に位置する市である。総人口2万3千余。松浦市と掛けてなんととく「年寄りととく」「その心は」「死(市)のごとなか」。分かって頂けるだろうか。昭和20年4月8日、わたしは松浦市新御厨町星鹿に生まれた。戦艦大和が撃沈された次の日である。



おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

(松浦市出身)